



会長 紺野 広 青少年奉仕 夏川戸 齊
副会長 橋本 昭一 幹事 松本 剛典
クラブ奉仕 橋本 昭一 会計 妻神 和憲
会長エレクト 橋本八右衛門 会場監督 佐々木泰宏
職業奉仕 道尻 誠助 直前会長 小林 幹夫
社会奉仕 岡崎 孝文 副幹事 小田山紀暢
国際奉仕 鶴飼 寿栄 会計補佐 小井田和哉

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 上村 奉樹
同委員 妻神 和憲 同委員 野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ

世界に希望を生み出そう

和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

2月 は 平和と紛争予防 / 紛争解決月間です

第3302回例会 2024.2.7

▶ ゲスト

南グループガバナー補佐 吉田賢治さん
八戸東ロータリークラブ会長 林 克己さん

▶ ビジター

盛岡ロータリークラブ 下道利幸さん

会長要件 紺野 広 会長



先般、八戸市と災害協定締結いたしました。それを実効性のあるものとしてやっていくために、お互いの考え方を知る必要があるだろうということで、八戸市の佐々木危機管理部長の卓話をお願いして、今、高谷さんと渡辺さんに動いていただいています。市の方に新たにできた部署での災害対応の考え方を聞いて、すり合わせを行っていきたいと考えます。

われわれの病院のいろいろなライフライン関係、例えばガス、食糧、重油など締結はしていますが、それぞれの業界の中での優先順位が明らかにされておりません。ですので、業界の思惑の中で優先順位が決められているようですが、そういうものもしっかりと明ら

かにしていくことが遅滞のない、初期の対応に繋がるというふうに思います。

それから熊谷市長の名誉会員卓話は4月以降でというご本人からのご意向でしたので、4月以降にお願いしようと思っておりますので、そちらも楽しみにしていただきたいと思

います。
きょうは右近彩葉さんの卓話を行います。じゃっかん二十歳前でポーランドに渡って、ウクライナからポーランドに避難したお子さんたちに対する奉仕活動を行っていらっしゃる方です。ロータリー交換留学生としてポーランドに行ってからその活動は継続されておりますので、きょうはその支援活動の内容を卓話として頂戴することにいたします。この卓話に関しては渡辺さんに動いていただき、また右近さんの地元であります大阪のロータリークラブとも連携を取ってやっております。最終的に遠隔地ではありますが、どういう形でわれわれがかかわりを持てるかということに関しても、この例会や後日に考えていきたいと思

います。
これに関しては南グループ8クラブにもご案内を出しましたので、きょうは吉田南

ループガバナー補佐、林八戸東会長にも来ていただいたものと思います。支援の輪を広げた方がいいのか、そういうことも含めてお話を聞いていただきたいと思います。

幹事報告 松本 剛典 幹事



○ロータリーレートのお知らせ
2月1日より、1ドル=147円
○能登半島地震への支援金
のお願いについて

お陰様で43名の方から395,000円の支援金をいただきました。2月5日に地区口座に振り込みましたので、ご報告させていただきます。

○2月14日(水)の例会は休会となります。

○2月21日(水)の例会はグランドサンピアで行います。

委員会報告

親睦・会場委員会 竹石 雄委員長



○ニコニコボックスの報告
林 克己さん

本日は、おまねきありがとうございます。

誕生祝 村館珠樹さん

奥様誕生祝 赤澤栄治・接待一雄
松本剛典さん

結婚記念日 赤澤栄治・接待一雄
松本剛典さん

渡辺 孝さん 右近彩葉さんの卓話、たのしみにしています。

八戸市競技かるた小中学生大会報告

岡崎孝文社会奉仕委員長



2月4日に南部会館で開催しました八戸市競技かるた小中学生大会の報告をいたします。

今年の大会で19回目になりますが、競技かるた大会に参加する方々が年々少なくなっていることがありましたの

で、普及に繋がればということで、今年の大大会は初心者に参加できる小倉百人一首の散らし取りを新たな種目として取り入れました。散らし取りは普通のカルタは対面ですが、複数人で囲んで取るような初心者向けの競技となります。11名ほど参加しました。

種目が増えたこともあり、今年の参加人数は全部で21名でした。競技方法は散らし取りも、対面でやる通常の競技カルタも3グループ(小学生低学年、小学生中高学年、中学生)に分かれてそれぞれで開催をし、各グループ3位まで表彰しました。参加した生徒児童は日本の伝統文化、小倉百人一首を通して楽しく一日を過ごせたことだと思います。開催にあたり吉田産業さん、八戸工業大学第二高等学校の和田先生、八戸ロータリークラブの皆さんのご協力をいただき、無事に大会を終了することができました。ありがとうございました。

会員増強委員会

佐々木泰宏委員長



すでに皆さんにご案内をしていますが、来週14日(水)の夜に第2回新会員応援IDMを開催する予定です。入会3年未満の方々を対象にしていますので、ご返事がまだの方はぜひともご参加

ください。内容はロータリーのイロハ、早く八戸ロータリーに馴染んでいただけるような内容を考えていますので、ぜひとも奮ってご参加お願いいたします。

参加の際には事務局の田名部さんにご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

司会：ポーランドの右近彩葉さん、大阪ロータリークラブの杉野幹事さん、今日はよろしくお祈りします。

紺野会長挨拶：そちらは朝5時ですね。たいへんなお願いをしてしまいましたすみません。杉野さん、わざわざご参加いただいてありがとうございます。大阪でもいろいろ右近さんを通して情報が入っているのしょうし、

支援に関してもいろいろ考えたりなさっているかと思います。

われわれはロータリーの友での右近さんの記事を読んでから、ずっと気にかかっておりました。ひじょうに遠くではありますが、せっかく日本人のロータリーの仲間がそちらで頑張っているということですので、何かできないかということを考える機会にさせてい

ただきたいという思いで、今回の企画をさせていただきます。ポーランドは朝早いのに関わらず、本当に卓話をご準備いただきありがとうございます。

少し質問の機会も取りたいので、さっそく始めさせていただきますと思います。よろしくお願いします。



「ポーランドでの生活とウクライナの子どもたち」

右近 彩葉 様



きょうはわたしのボランティア活動と今の生活のことも少し話せたらと思っています。パワーポイントを作らせていただきました。

まずはわたしの紹介からさせていただきます。右近彩葉と申します。大阪で生まれて大阪で育ちまして小中と通って、高校は大阪のUMCA国際専門学校に入学し、今は卒業しています。現在はロータリー青少年交換プログラム派遣生としてポーランドに留学しています。

初めに2022年に皆さんもたくさんニュースでご覧になったと思いますが、2022年2月末にロシアがウクライナの侵攻を始めまして、戦争がウクライナで起こっていました。皆さんもテレビや新聞だったりでいろんな情報を集めていたと思いますが、わたしも視聴者としてテレビで見ているんだらう、ウクライナは遠くないし、ロシアという国も遠くなくて、よく耳にする国はあるし、それで同じ自分の住む世界で戦争が起きているというのが実感が湧かない感じがして、どうなっているのかな、見て見たいな。

それから始まり、ちょっと行ってみたいという自分の気持ちから始まって、わたしは

ここにもカレンダーがあるのですが、2月末に行ってみたいと思って親に相談したら、“行き”みたいな感じで軽く背中を押されて、そこからは両親と一緒にどうやったら行けるのかを探し始めました。で、自分一人で行こうと思っていたのですが、その当時は17才、未成年ということで、泊まる場所や預かってもらえる場所がなかなか見つからず、1カ月くらいどうしようか悩んでいました。先ほど紹介したわたしのYMCAの高校のクラスメイトの一人にお父さんがポーランドの子が居て、その子にウクライナのことでボランティアをしたいけど、ポーランドは隣の国だし何か知っている人いいひん？みたいな話を持ち掛けてみたら、その友だちの家族総出で動いてくれて、ヘンリックさんを紹介してもらって、ヘンリックさんが快くわたしを受け入れてくれるということで、4月には決定して5月初めにはもうポーランドに飛び立ちました。なので、3か月後くらいには、もう向こうに行ってボランティアをさせていただいていました。

今からボランティアの内容、ポーランドの町のようすを紹介したいと思います。街のようすとしては3か月しか経っていないこともあり、街中にはシェルターと呼ばれる避難所、炊き出しが多く見られました。わたしが行った場所はヴロツアフ市です。ポーランドの東側はウクライナに近い方、西側はドイツに近い方です。ヴロツアフ市ドイツに近い町です。少しウクライナから離れていますが、でも街

中を歩けばウクライナの旗がいっぱいあったり、炊き出しがいっぱいあったり、シェルターがあったり、大きい荷物を持ったウクライナの方を街中で電車の中、バスの中では多く見かけました。

わたしはその中の1つのシェルターでボランティアをさせていただきました。ここのシェルターには毎日約1,000人以上の避難民の方々が来られていました。皆さんここで日用品や服、炊き出しのご飯をもらいに来ていました。わたしはそのシェルターの中の角の一角にあるプレイグランドと呼ばれる子どもたちが遊ぶ場所でボランティアをさせていただきました。

やはりわたしが行ったのはいいものの、ポーランド語も話せない、ウクライナ語も話せない、ロシア語も話せないということで、コミュニケーションだったり、ウクライナの方だったり、ポーランドでボランティアをしている方とのコミュニケーションが難しいということで、子どもならまだ言語を使わずに、何か自分にできることがあるかということで、そのプレイグランドでボランティアをさせていただきました。

わたしが日本から持って行った習字を子どもたちと一緒にしたり、少し日本語を教えたり、逆に子どもたちからウクライナ語やロシア語を教えてもらったりしてボランティアをしていました。主に子どもたちと遊ぶ、過ごす、何かわたしがその子たちの生活を手伝うというよりは、プレイグランドに来ている間は楽しんでもらおうとおもって動いていたことが多いです。たまに赤ちゃんを抱えたお母さんが来て、ちょっと見ておいてと渡されて、どうしよう。赤ちゃんを抱えて、しかも他の子どもみないとアカンという感じのときもありました。でもそれも自分的にはめちゃ嬉しかったです。

初めは子どもとはうまくコミュニケーションを取れていたりしたのですが、やはりお母さんとのコミュニケーションは言語も通じない中で難しく、またお母さんもお母さんで自分の子どもを預けるにあたって心配な面も

あったんですが、そうやって、ちょっと見ていて、よろしくねという感じで言うてくださる人が多くて、何か受け入れてもらっている感じがして、わたしはとても楽しく、嬉しかったです。

42日間ボランティアをさせていただいたのですが、月曜日から金曜日まで朝9時から夕方6時くらいまで毎日ボランティアをしていました。日本から持っていたものは習字、折り紙などで、わたしがポーランドに行く決めて、高校の友だちにポーランドにボランティアに行きたいと思っていることを相談したら、学校の友だちがみんな、わたしのボランティア活動を応援する募金活動をしてきて、みんなで募金箱をポスターを作ってくれて、呼びかけてくれました。そこで集まったお金を使って習字やお菓子をたくさん買って、日本から持って行きました。

メッセージの書かれた旗は、せっかくだからみんなが集めてくれたお金もあるし、みんなが日本とウクライナの子どもたちで繋がれたらいいねということで、旗に学校の友だちからのいろんなメッセージを書いてもらいました。ミサングも学校の友だちがこれを持って行って欲しくない？子どもたちに渡して欲しいということで預かったものです。子どもたちは本当に目をキラキラさせて、かわいいとみんな喜んでくれました。

やはりプレイグランドで遊んでいても、ものを共有しないといけないだったりなど、なかなか自分のものを持つことができない。大好きなおもちゃをウクライナに置いて。こっちに避難している子もいたので、こうやって一人一人にそれぞれ違ったブレスレッド、ミサングを渡すことができ本当に良かった。かわいい笑顔を見れたので、ミサングを作ってくれたわたしの友だちにも本当に感謝です。どんなものでも子どもは基本本当に喜んでくれて、お菓子だったり。日本のお菓子にはとても興味があって、一番好きなお菓子は駄菓子のラムネで。みんなメッチャ気に入って、一回持って行って、次の日に持って行かなかったら、え？何で持ってきてないの？とい

う感じで、彩葉を待っていたというよりもラムネを待っていたみたいな感じになって。わたしがそうすることで、その子たちが小さいうちから他の国の文化に触れる機会を作れて良かったと思いました。42日間、ここのシェルターで他のボランティアの方にも支えていただきながら、子どもたちにもパワーをもらいながら、毎日楽しく、本当に楽しくあつという間の42日間でした。

本当は帰りたくないという親にもうちょっと長くいさせてくれないかという相談をしました。わたしはその時高校3年生でやはり自分の進路などにも向き合えないといけなかったもので、その後、日本に予定通り帰って来ました。ここまでがわたしは1回目にポーランドに行ったときのボランティアをした内容です。

これから日本に帰ってからの話をします。まず日本に帰ったら、先程紹介したポーランド人のヘンリックさんから、一人の人に会って欲しいという話をされて、連絡先をもらいました。その連絡先に連絡をさせていただいたら、おじいちゃんが出て、取りあえず家に来いと言われ、その方の家に行かせてもらいました。その方は近藤真道さんというロータリーの方で、わたしがウクライナの方々に向けてボランティア活動をしているという情報を耳にしてくださって、興味を持ってくれて家に招いてくれました。

家に行ってどんなことをしたかなどを話していると、もう1回ポーランドに行きたいかと言われましたので、もちろんと即答でハイと言いました。よっしゃわかったと言ってきて、彩葉は何のことかと思っていましたが、その後にロータリーの青少年交換プログラムを紹介してくださって、是非とも近藤真道さんがこれを使ってもう一度ポーランドに行かせたいと言ってくださって、大阪ロータリーの方々にもスポンサークラブとして協力させていただいて、ロータリー青少年交換プログラム候補生として参加させていただきました。もちろんそのまま派遣先もポーランドのヴロツワフ市に派遣させていただき、今現在ポーランドにいます。8月末～9月始めから

ポーランドに来て、だいたい5か月くらいです。留学の半年が過ぎました。

これからポーランドに来てのわたしの生活を皆さんにシェアしたいと思います。ポーランドのヴロツワフ市はけっこう大きい町であると思います。町並みは昔ながらの建物が多く、カラフルな建物も多いとてもきれいな街です。留学に来ているわたしでも毎日見て、ああきれいな街だなと、ヨーロッパに来ているな、夢の中にいるみたいでとても生活のしやすい町です。他の派遣生はわたしの他に7人います。アメリカ、トルコ、ドイツ、メキシコ、ブラジル、台湾、オーストラリアから来ています。ヴロツワフにいただけで世界中のインターナショナルなグローバルなチームだと思ってびっくりしています。他にもポーランドには35人くらいの留学生がいて、他はアルゼンチン、カナダ、韓国など世界中から集まっています。

わたしは元から留学は夢だったので、本当に行かせていただけてとても嬉しいです。ロータリーの青少年交換プログラムの本当が一番いいところは、こうやって世界中から集まった他の留学生と友だちになれること、世界中にコネクションを作れることだなと感じています。たぶんこれは他の留学プログラムを使ったり、ではなかなかできない経験だと思うので、こうやって世界中の仲間と出会えて本当に良かったと思います。写真を見ていただくとわかると思いますが、本当に毎日楽しく過ごして、いろんな仲間と楽しく過ごしています。

クラスメイトの集合写真、9月には自分の誕生日パーティーをみなで祝ってくれたり、ホストファミリーもみんな優しく家族みたいに受け入れてくれて、とても自分としては居心地のいいところに一緒に暮らしています。ポーランドは寒い国なので、スキーに行ったりして、毎日毎日楽しく、美味しい食べ物に囲まれながら生活しています。こちらではポーランドの公立の学校に毎日通っています。せっかくポーランドに来たなら、やはりウクライナの子どもにかかわりたいなということ

をロータリーの方やヘンリックさんに相談をさせていただいて、学校に行きながら今もボランティア活動を続けています。

今からは2回目のボランティアで何をしているかをお話します。たくさんいろんな活動をさせてもらっています。まず一番最初にした活動として、子どもたちにサッカーボールのプレゼントをしに行きました。2か所に合計150人の子どもたちにサッカーボールを渡しにいきました。これはアメリカのロータリークラブの方とヴロツアフのロータリーの協力でさせていただいたボランティアです。本当にボールをもらった瞬間にメッチャ笑顔になって遊び始めて、わたしにも蹴って蹴ってとボールをたくさん渡してくれたりして、とても喜んでいました。

この後からわたしのボランティア活動が本格的に始まり、一度はリトリートケアといってウクライナにいる子どもたちが2週間～30日ほどポーランドに来て一時避難、泊まる場所に子どもたちが集まって必要なものを買出ししたり、保護が必要な子は保護をして、リトリートケアをする場所がポーランドにもたくさんあります。その1つに行かせていただきました。わたしは特に何もしてないですが、子どもたちと一緒に遊んだり、みんなの靴、寒いウクライナの冬に向けてブーツを買うのでサイズを見たり、選ぶのを手伝うことをしました。やはりこの子たちも本当にかわいく、最後にバイバイするときにはとても心が苦しくて、ウクライナに戻ると聞いていたので、やはり心配という面もあり心が痛かったですが、一緒にいる間はとても楽しく過ごしました。

クリスマス旅行に行ってきました。大阪ロータリークラブから寄付をさせていただいて、その寄付金でクリスマス旅行をさせていただきました。1回目は2023年の春の初めにさせていただいて、これは2回目のクリスマス旅行でポーランドの首都のワルシャワとポーランドの北方の海に面しているソポトというバカンス地に2泊3日で行ってきました。子どもたちは本当に喜んで、ベットに飛び込んだ

りして、本当に行けて良かったと思いました。

ワルシャワには日本大使館がありますが、今回は日本大使館に招待していただきました。たくさんワークショップを用意してくださって、習字、法被、着物を着る体験、おにぎりを自分で作って食べるコーナー、日本のお菓子が置いてあったり、折り紙ができる場所、昔の日本のコマなどのゲームができる場所があったりなど、たくさん準備をさせていただきました。最後に一人ずつ、子どもたちの名前を習字で書いたプレートをプレゼントし、それに日本のお菓子や物をたくさん詰めたギフトバックをプレゼントしていただいて大満足でした。最後にはみんな帰りたくないと言ってました。

楽しい、楽しい2泊3日でした。もちろんたくさん日本語を教えて、みんな大阪訛の「ありがとう」を覚えて、常に全然ありがとうの状況でないときでも、わたしにもありがとうと言うくらい、もうみんな日本大好きになってくれたと思います。この子どもたちは戦争で親や家族を亡くしポーランドに避難してきて、ボランティアの方々と生活をしている子どもたちです。なので、普段なかなかレジャーなどの楽しみ、こうやって旅行に行くことなどが難しい中で、こうやってわたしたちが連れて行って、しかもわたしとしては日本の文化や食に触れてもらえる機会が作れて良かったなと思います。これが、今、わたしがボランティアをさせていただいている内容です。

これから何をしていきたいか。わたしは今5か月経って、あともう5か月ポーランドに留学をする予定です。その中でやはり子どもたちと関わっていきたいと考えています。が、残念なことにたくさんウクライナの方々、子どもたちは今ウクライナに戻っている状態で、わたしがボランティアをして関わった子どもたちや毎週通っていたリトリートの子どもたちは皆ウクライナに帰ってしまった。で、今一応探してはいますが、この周りには今ボランティアできる場所がないというところで、今はヘンリックさんと一緒に

探しながら何ができるか考えながら動いているところです。でも、やはり見つけたならば、できることはぜひしたいと思っているし、わたしがボランティアをしていた子どもたちは帰ったけど、まだポーランドにはたくさんのウクライナの方や助けが必要な方がいるので、そこに関わることができたらいいなということを考えています。

もっと具体的な話、将来的な話をする、このままポーランドの大学にも進学したいなと考えています。というのはポーランドはすごくいい国で、人も優しいし、文化も面白いので、自分がそこに興味を持ったということもあって大学の進学を考えています。進学をして、もっと親を亡くしてしまった子どもたちの生活、戦争によって生活が変わった子どもたちを支えられることをもうちょっと継続していけたらということを考えていますので、今後もわたしはどんどん活動していく予定です、皆さんにもぜひ応援していただけたらと思います。

これでわたしのプレゼンテーションを終わりにさせていただきたいと思います。聞いていただいてありがとうございました。

質疑応答

Q 1 (紺野) : 青少年交換留学生のロータリーの事業のすばらしさをお教えいただいたと思います。ウクライナの情勢は最近報道も少なくなっていて実感することがなかなか難しくなっていますが、八戸市の隣の南部町に避難していたウクライナの方もお帰りになったし、ある程度支援する体制も国内で少しずつ整っているのかなという気もして見ておりました。まだポーランドにたくさんの支援が必要な方がいらっしゃるということですので、杉野さんとも相談させていただきながら、われわれのクラブでもできることを考えていきたいなと思っています。

いろんな事業をする上で、やはりこちらから物を送るよりは、そちらで物を調達してという形のほうが恐らくやりやすいのではという気も、お話を聞いて思いました。杉野さん、

またどこかでお話をさせていただく機会をいただければと思います。

最初にきっかけを作っていただいた高槻ロータリークラブとスポンサークラブの大阪ロータリークラブともクラブ間の連携や地区の中での連携みたいなものはありますか？杉野さんにお伺いしたいと思います。

A 1 (杉野) : 大阪ロータリークラブの幹事の杉野と申します。まず近藤さんからご紹介いただいて、地区がまず動くという形になって、たぶん地区が最初に動きました。今後の彩葉さんの動き、また資金面のところ、人材というところで、たぶん大阪ロータリークラブにスポンサーになってくれということで、わたし共のほうにご依頼いただきました。

先ほど日本大使館の方で旅行に行った時に2年連続で歓迎を受けたということでしたが、こちらは大阪ロータリークラブに外務省の関西全権大使という方が必ず会員でおられて、その方が元々ポーランドのワルシャワの大使館におられましたので、今の大使を部下で知っているということでもつないでいただいて、旅行のときに日本大使館を使って楽しませて欲しいということになりました。大使も当然やらせていただくということで大歓迎。それについて現地がヘンリックさんに実施していただいて、こちら側が資金面の援助を実施することになりました。

ですから、きっかけはヘンリックさんとその時の留学をお手伝いされた近藤真道さんから彩葉さんをご紹介いただいて、今もスポンサーをしながら、彩葉さんの生活をできるだけサポートしたいと思いながら、大阪ロータリーで動いているということになっています。

Q 2 : 右近さん、ポーランドは2回目で長く滞在されていると思いますが、写真だと子どもたちとすごく楽しそうな写真が多かったのですが、右近さんは何か生活や気持ちの面で辛いこと、大変なことがあれば教えてください。

A 2 右近：わたしはあまりそういうことは感じないです。あまり辛い、しんどいと感じることは、幸運にもまわりの友だちやホストファミリーもとてもいい方々で助けてもらっているの、感じることはないです。やはりたまたま、本当に小さいことの文化の違いや日本の物のクオリティーのすごさ、MADE IN JAPANは凄いなと改めて思ったりはしました。

でも、それ以外で困ることは、食べ物で本当においしく、食べないことにするのがとても難しいくらいにおいしくて、どんどん体重も増えていっています。そこくらいです。我慢することはたいへんです。あとは友だちもメッチャ気にかけてくれるし、ホストファミリーもここに行きたい？どこに行きたい？これ作ったよといって、いっぱいわたしにいろいろしてくれるので、あまり辛い経験はこちらに来てからはないです。

Q 2：あまり苦労はなく、すごく楽しくできているということですね。

A 2：でも一番しんどいのはポーランド語の習得です。とても難しく、ポーランドが意味不明な場所が多すぎて。そういう意味ではヨーロッパの言語はどこも難しいと思うんですが、特にポーランド語はルールが多かったり、変なルールが多くて。先ほど紹介したヘンリックさんもかわいそうって。ポーランド語でかわいそうって言われました。難しすぎて、そこはちょっと難しいし、発音もなかなか難しい。しゃべろうとトライしても通じないことがあります。でも、そのたびに周りがクイズ大会みたいになって、彩葉が何を言おうとしているかをみんな想像して当てようとしてくれるので、その分には助けてもらっています。

Q 2：ある程度ふつうにコミュニケーションはできるくらいにはしゃべれる？

A 2：あ～。自分のしたいことだったり言えたりはしますが、なかなか話し合うことはできない。自分の意見を一文だけ言うのはできるのですが、コミュニケーションといたら、ちょっと難しいかもしれないです。

Q 2：まだポーランドに長く滞在されるかと思いますが、これからも頑張ってくださいと思います。

紺野会長：右近さん、本当にありがとうございました。杉野さんもお参加ありがとうございました。ひじょうに勉強になりました。右近さんはこれから登校の準備ですね。ありがとうございました。

われわれロータリーの仲間がこうやって世界で活躍していることを、実際に話を聞きながら我々のクラブの支援のあり方を逐次考えていく、そういうことをこれからもしていきたいと思います。きょうは本当にありがとうございました。



